

サッカーの第103回全国高校選手権県大会は3日、北条スポーツセンターで準決勝2試合を行った。松山北が2連覇を狙った第3シードの今治東を1

—0で破り、2016年以来の決勝に進出。第4シードの新田は松山学院を3—0で下し、4年ぶりの頂点へあと一つに迫った。

松山北は互いに無得点のまま迎えた後半31分、河窪が値千金のゴールを決めた。新田は後半に木原の先制弾など3点を奪って快勝した。

決勝は10日正午からニンジニアスタジアムで実施する。

県高校サッカー準決勝

【新田—松山学院】後半38分、新田・大石(7)がゴールを決め2—0とする—北条スポーツセンター



【松山北—今治東】後半31分、松山北・河窪(9)が先制ゴールを決め喜ぶ選手ら—北条スポーツセンター



新田 松山学院に3—0

▽準決勝
新田3(0—0)0 松山学院
▽得点者【新田、大石、石橋】

新田が楽き上げてきた攻撃サッカーを4強の舞台でもいかんなく発揮。後半のゴールラッシュに、田主松主将は「難しい状況もあったけど、チームで共通意識をもってプレーできた」と冷静だった。立ち上がりこそ松山学院の出足の鋭さには手を焼いた。ただ、新田

は落ち着いてボールをつなぎ、前半の途中からペースをつかむ。何度も敵陣に攻め込み、あとはゴールを決めるだけという流れ

先制奪えていれば松山学院・平山(第1シード)を破って初の4強も敗戦。「前半に良い入りができたところで(先制点を)奪えて

ペース握り攻撃衰えず

声を弾ませた。攻撃の勢いは最後まで衰えず、終盤に大石、石橋がゴールネットを揺らして盤石の試合運び。優勝した2020年以来的決勝へチームに自信がみなぎる。田主松は「どこが相手でも新田のサッカーは変わらない」と力強かった。(清家康尊)

松山北 今治東に1—0

▽準決勝
松山北1(0—0)0 今治東
▽得点者【松、河窪】

青いユニホームの旋風が止まらない。1、2年生主体の松山北は、前年王者・今治東から終盤に奪った1点を死守。準々決勝に続くシード校の撃破に選手たちは雄たけびを上げた。

8年ぶりの決勝を引き寄せたのは忍耐の守り。前半から攻勢にさらされる中で、全員が足を動かし、体を張って相手を押し返した。唯一の3年生森は「前半終了間際に惜しいシュートもあり、絶対に

決められず力不足。今治東・岡田主将(1点に泣き2連覇ならず)「自分が前半の決定機を決めていれば勝

忍耐の守り 決勝点呼ぶ

で得点がなかったの、きょうは取るぞと狙っていた」と胸を張った。若いチームを率いる兵頭監督は決勝に向け「(チャンスは)来年もあるではなく、今しかない」。森も「決勝で負けたら意味がない。いい準備をして臨む」と気合十分だった。(清家康尊)

松山商など 準々決勝へ

高校ラグビー県予選ラグビーの第104回全国高校大会県予選は3日、西条市東予運動公園球技場で開幕し、1回戦2試合を実施。松山商と合同2(松山工・松山東)が初戦を突破した。大会第2日は10日、久万高原町ラグビー場で準々決勝2試合を行う。

△1回戦	松山商 26	141	5	7	12	西	条
合同2	(松山工)	59	3524	1210	22	合同1	愛光北
(松山東)						学院	松山